



現地集合・現地解散 —シンガポールから マレーシアへの鉄道の旅—

法科大学院 松井 直之

私は、外国に行って、現地のバス、地下鉄、電車、列車などに乗るのが好きです。行先を決めて、そこへ行くための交通手段を選び、バス停や駅を探し、切符を買って、目的地のバス停や駅で降り、目的地へと向かう。日本国内だったら、日本語が通じるから、たとえ道に迷っても、どうにかかります。しかし、外国では、そうはいきません。

大学院生のとき、私は、中華系マレーシア人（華人）の同級生の実家・ジョージタウン（マレーシアのペナン島）に遊びに行く旅をしました。大学1年生のときから、第一外国語として、中国語（北京語）を勉強してきたし、中国、台湾、香港、マカオ、韓国など、何度も旅してきたという自信もありました。しかし、その旅は、ひとりで現地に集合し、現地で解散するというものでした。

初めてのシンガポール。新東京国際空港（当時）から、日本航空（JAL）に乗って、シンガポール・チャンギ国際空港に到着しました。ひとり、しかも深夜でした。「ホテルまで、どうやって行こう……」。シンガポールは、多民族国家なので、英語、中国語をミックスして話しても通じます。つたない英語、つたない中国語を駆使して、タクシーでホテルに行きました。シンガポールでは、マーライオンを見て、オーチャード・ロードをぶらぶらし、第二次世界大戦中のシンガポールの歴史を展示するチャンギ博物館（チャンギ刑務所に隣接）などにも行きました。

翌日、ジョージタウンに向けて出発です。と



シンガポール（タンジョン・パガー）駅：筆者撮影

ころが、シンガポールからペナン島の対岸の町バタワースまで直通するマレー鉄道の列車はありません。まずは、シンガポール駅（当時）からクアラルンプール（KL）駅（当時）に行き、その後、列車を乗り換えて、KL駅からバタワース駅に行くことになります。

列車は、夕方、シンガポール駅を出発し、翌日の朝、KL駅に到着しました。お腹が空いたので、KL駅構内のハンバーガー・ショップに行きました。マレーシアは、多民族国家ですが、マレー系マレーシア人には、あまり中国語が通じません。私は、マレー系の店員に、英語でチーズ



キリスト教会（マラッカ）：筆者撮影

バーガーを注文しました。ところが、なかなかチーズバーガーが出てきません。通りかかった中華系の方に、中国語で「チーズバーガーを注文したけど、なかなか出てきません」と話すと、店員にその旨を伝えてくれて、ようやくチーズバーガーにありつくことができました。

KL 駅からバターワース駅に行く列車は、夕方に出発します。それまでの時間は「マラッカに行って観光するといよいよ」と、同級生から事前アドバイスをもらっていました。お腹を満たした私は、KL 駅からブドゥラヤ・バスターミナルまで歩き、マラッカ行きのバスに乗ることにしました。「華人がいない。何かあったら、英語しか通じない……」。緊張する私を乗せてバスは、何事もなく、マラッカに到着しました。マラッカは、赤い建物が目を引きます。フランシスコ・ザビエルの功績を称えるセント・フランシス・ザビエル教会にも行きました。

バターワース駅行きの列車に乗るために、KL に戻ろう。疲れて寝てしまった私を乗せてバスは、ブドゥラヤ・バスターミナルに到着しました。列車は、夕方、KL 駅を出発して、翌日の朝、バターワース駅に到着しました。ペナン島行きのフェリー乗り場に行くと、同級生が待っていてくれて、私は、心からほっとしました。ジョージタウンでは、昼間は、街中を歩いたり、ラササヤン・ホテルのプールで泳いだり、夕方

は、ホッケン・ミー（福建麵）などのマレーシア料理を食べたりして過ごしました。

ジョージタウンで解散です。ペナン国際空港から、マレーシア航空に乗って、クアラルンプール国際空港（KLIA）まで行きます。新東京国際空港行きの JAL は深夜に出発するので、KLIA からタクシーに乗って KL 市内に行き、時間を潰しました。KL 市内では道に迷い、漢字の看板の事務所に入って事情を説明すると、中華系の方がバス停までついてきて、運転手に行先を伝えてくれたので、無事にペトロナス・ツインタワー（日本の建設会社安藤ハザマも施工した）を見に行くことができました。

「なんで日本人が中国語を話せるの？」KLIA に戻り、深夜に出発する JAL の搭乗まで、ひとりで、KLIA のレストランで食事していると、ホールスタッフが声をかけてくれました。ほんの少し勇気を出して、中学生のときから学んでいる英語、大学で学んでいる外国語を使ってみると、いつもとは違う世界が広がります。

時は流れ、この旅を彩ってくれたマレー鉄道のシンガポール（タンジョン・パガー）駅からウッドランズ駅（シンガポール国境付近）までの区間は、2011年6月に廃止され、今は緑道になっています。そして、シャトル・テブラウ（Shuttle Tebrau）が、世界最短の国際列車として、ウッドランズ駅からマレーシアのジョホールバル・セントラル駅までの2.1kmを走っています。



セント・フランシス・ザビエル教会（マラッカ）：
筆者撮影